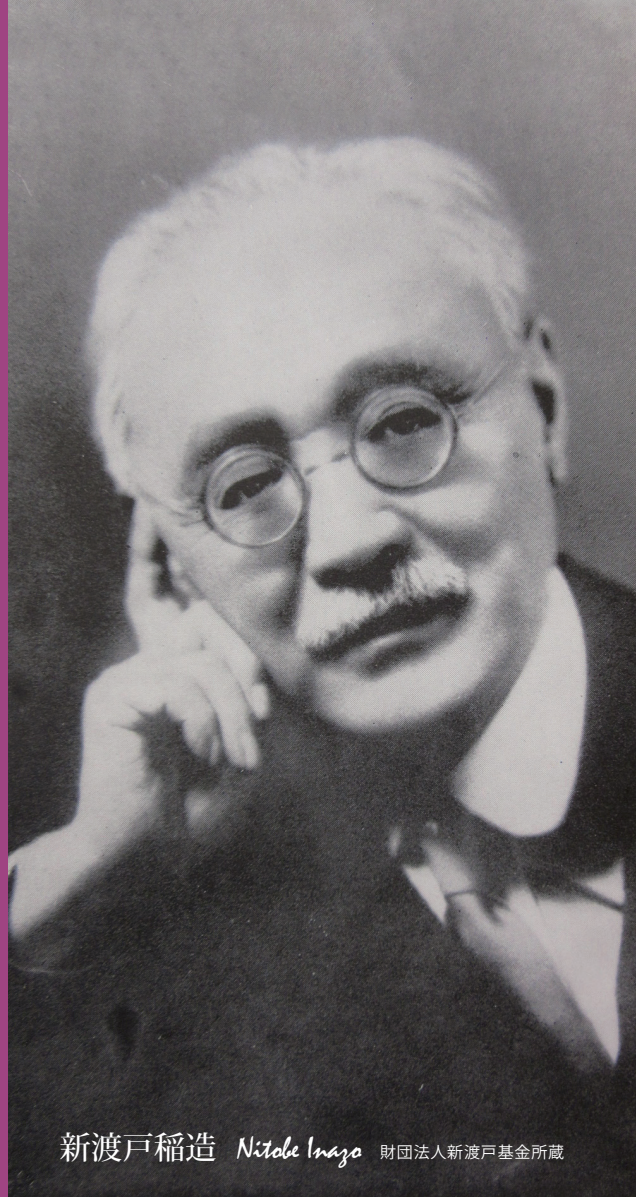




津田梅子 *Tsuda Umeko* 津田塾大学所蔵

# 津田梅子と新渡戸稲造

二人の出会いと協力、別れまで



新渡戸稲造 *Nitobe Inazo* 財団法人新渡戸基金所蔵

津田塾大学創立120周年記念事業

## 講演会

主催：津田塾大学記念事業委員会

参加無料

講演者

一般財団法人新渡戸基金理事長

藤井 茂 氏

TSUDA UNIVERSITY  
120TH ANNIVERSARY

2024年 1月22日

13:00 - 14:30

会場 〒187-8577 東京都小平市津田町 2-1-1

津田塾大学 小平キャンパス

※ご来訪の際は公共交通機関をご利用ください。  
西武国分寺線「鷹の台」駅より徒歩約8分  
JR 武蔵野線「新小平」駅より徒歩約18分

### プロフィール

昭和24年(1949)6月、秋田県大館市花岡町出身。現在、一般財団法人新渡戸基金理事長。東京での会社勤務を経て昭和61年(1986)から盛岡タイムス社に勤務(社会学芸部長、編集委員、校閲部長)。平成15年(2003)暮れから新渡戸基金に勤務し、企画部長、事務局長、常務理事をへて平成29年(2017)10月末から理事長。そのほか新渡戸稲造会会長、北東北・日本アメリカ協会副会長、岩手台湾懇話会事務局長、岩手県日本・カナダ協会理事。米内光政会会長。岩手鳳鳴会会長。岩手古文書学会顧問。

お申込みはこちらから

右記の二次元コードからお申込み下さい



<https://forms.gle/GZvVtPCvz5Mjh2u38>

※定員になり次第受付を終了します。



## 講演の概要

新渡戸稲造は幕末に盛岡の武士の家庭に生まれ、上京したのち札幌農学校（現北海道大学）を終え、再び上京して東京大学からアメリカに留学するが、その時代、津田梅子の存在を知る。明治24年（1891）1月、アメリカでメリー・P・エルキントン（フィラデルフィア出身）と結婚後、札幌農学校教授になったが、働きすぎて神経衰弱となりアメリカで休養中の明治33年（1900）1月、フィラデルフィアで英文『武士道』を出版する。

同じ年の9月、梅子も東京麹町に女子英学塾（現津田塾大学）を創立するのは奇妙な一致だが、新渡戸の『武士道』と女子英学塾の創立の2つに、共通の友人アナ・C・ハーツホン（フィラデルフィア出身）が関わったことも忘れられない。

新渡戸はその翌年から、積極的に梅子に協力していく。英学塾での講演や訓示での協力は勿論のこと、梅子が体調を崩してからは授業も受け持ち、ついには自ら「塾の伯父」と称するほどになっていく。梅子が昭和4年（1929）夏に亡くなった時には、30分にもおよぶ弔辞を読んで、亡き友を追悼したほどだった。

新渡戸は稲造個人の協力もさることながら、妻メリーも養子孝夫（よしお）も養女琴子も含め、一家あげて英学塾に協力した。そればかりか、妻メリーの弟ジョセフ・エルキントン夫妻も献身的に英学塾に協力し、講演とともに多額の寄付も惜しまなかった。

今回は、新渡戸稲造と津田梅子の出会いから協力し別れまでの30年余りとともに、新渡戸一家と英学塾との協力関係などに、あらためて光を当ててみたい。



幼き日の稲造



弟ジョセフ・エルキントン（左）と新渡戸夫妻

写真は財団法人新渡戸基金所蔵



国際連盟時代

### お問い合わせ



津田塾大学 経営企画課

〒187-8577 東京都小平市津田町 2-1-1

電話番号 : 042-342-5146

メールアドレス : senryaku@tsuda.ac.jp

公式ウェブサイト : <https://www.tsuda.ac.jp>